

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700153		
法人名	社会福祉法人 上士幌福寿協会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム むかし館		
所在地	河東郡上士幌町字上士幌東3線241番地		
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果市町村受理日	平成23年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員も環境の一員であることの認識と利用者の命を守る立場であることを基本として徹底することが利用者から受け入れられることであり、利用者が安心して生活できる場作りに繋がっていく。この基本を抜きにして人間関係は成り立たない。よって日々の基本の徹底に取り組んでいる。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174700153&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は社会福祉法人が母体となった特別養護老人ホームなどを含め5つの福祉サービスを運営している上士幌町唯一のグループホームである。平成14年に1ユニットから開設し、一昨年には隣接の高齢者生活福祉センターを改装して1ユニット増設し、2ユニットとなり、地域に欠かせない高齢者の福祉施設として信頼の厚いホームになっている。ホーム内の共用空間や居室など、各ユニットと共に広くゆったりとした造りになっており、地域住民や家族からの寄贈された箆笥、ラジオ、茶ぶ台、薪ストーブなどの昔懐かしい物品が所々に配置され、利用者が安心して過ごせるよう工夫しており、利用者が思い思いに過ごせるように所々に置かれたソファや畳みのスペースは洗濯物たたみや利用者同士が談話する場所になっている。運営者は「職員の育成」「人事考課制度」「OJT及び外部研修」を重点目標として取り組み結果に繋げており、今後は法人全体での質向上のために現在実施している月2回の現場の責任者が集まる管理者会議の他、法人内での事業所評価、事例発表会の実施を計画している。管理者及び職員は常に利用者・家族の立場に立ち、本人本位のケアの実践に向け「根拠のあるケア」を基本として日々、ケアの質向上に取り組んでいる事業所である。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護サービスを必要とする高齢者と家族が地域で自立した生活を営むことができるよう支援します。と理念を上げています。	利用者が家庭的な環境の下、住み慣れた地域で継続して過ごせるように理念を作り上げており、その実践に向けて申し送りや全体会議で話し合い確認している。また、ユニット毎に目標設定し、毎月の全体会議で評価している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加することはあるが積極的な関わりとはなっていない。(盆踊り、町内会花見、お祭り、行事など)	町内会の行事や活動には法人の他の事業所と連携しながら参加し、法人主催の盆踊りや他の行事に参加するなどして交流を図っている。また、社会福祉協議会に登録しているボランティアの訪問もあり、地域資源を活かした取り組みも行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町からの依頼により認知症見守りボランティアの参加者の受け入れを行なっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価の実施状況を伝え、その中から意見をもらい取り入れている。	運営推進会議は評価日の時点で4回開催されており、事業所の事業報告や自己評価、外部評価の取り組み状況、ホーム行事の案内や結果について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今後は、年6回を目安に運営推進会議が定期的開催されるよう期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人の事業として取り組んでいる。	普段から町担当者とは連絡を密にして、共にケアサービスの質向上に取り組んでいる。また、地域ケア会議などを通じて、他の事業所と連携して町全体の福祉サービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し取り組んでいる。	身体拘束について、身体拘束排除マニュアルを作成し、職員会議や勉強会を実施し、管理者、全職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施しているが自宅の状況把握まで意識の醸成まで至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で受講しているが他職員に伝達までに至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレット等を持って行き説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員との関係では意見等表すことが出来ているが外部者への機会は特に設けていない。	家族の来訪時に意見や相談事をしやすい雰囲気作りを心掛け、そこでの意見は全体で話し合い結果を報告し、法人全体の運営に反映させている。また、年2回、家族や運営推進委員を交えた行事や交流会を開催し、外部者へ表せる機会を設けている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のミーティング及び月1回の職員会議の中で機会を設け反映している。	事前に職員からキャプションカードで、抱えている問題や悩み、意見を提出して把握に努めると共に毎月の職員会議の中でも機会を設けており、運営や介護サービスに反映している。また、半年毎に管理者との個人面談でも職員から聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し質の向上に努めている。前期・後期の目標を設置し達成するために努力している。上司と面接し話し合いの場を持っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については学ぶ姿勢を持ち参加している。法人外研修についてはテーマに沿って何を学ぶかを事前に見極め参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会・ブロック等の研修を通しサービスの向上に努めネットワーク作りを目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	一部センター方式を採用している。アセスメントの中で聞き出し受け止めた物を様式にまとめて行く。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	一部センター方式を採用している。アセスメントの中で聞き出し受け止めた物を様式にまとめて行く。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	家族の了解を得て在宅介護支援センターに繋げて行く。		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	基礎介護の徹底。基本的に本人の思いによって一日を過ごしてもらう。一日を通して役割作りが習慣になって聞けるよう関わって行く。		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	来館された家族は、お客としてではなく日常的な仲間も含め他の利用者とも関わる場を作る。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	町内へ買い物などに出掛ける。	日常の会話から思い出話や馴染みの場所を忘れないよう取り組んでおり、町内の買い物や知人の訪問、馴染みの理美容院などにも行ったり、時には来てもらったりして支援に努めている。また、利用前からの趣味のゲートボールにも継続して参加している方もいる。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	基本的に本人の思いで対応している。(一人でいた時間、二人以上複数でいる時間)職員は意識して見極め対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ法人内に移動した利用者については情報として事業所・家族に伝え定期的に会いに行った。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用をケアプランに導入し実施している。	利用者本位の生活が過ごせるように、家族や本人からの意向や希望をセンター方式のアセスメントを使って把握し、全職員で情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用をケアプランに導入し実施している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当制で対応しカンファレンスの実施。日常的なものについては朝のミーティングを活用。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式にて利用者本位の介護計画を実施している。計画、作成担当者のアドバイスを受け情報を集めている。職員の洞察力が不足している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見やカンファレンス、モニタリングを通じて職員の意見を介護計画に反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケースに記録し必要と判断した内容については朝のミーティング等で協議している。しかし、記録内容で洞察力が不足気味である。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて事業所の多機能性を生かした柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上土幌町主催の認知症見守りボランティア養成講座の参加者の受け入れを実施した。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にし地元協力病院にて相談等が可能であり治療を受けている。	受診は、本人及び家族などの希望を大切に、かかりつけ医に受診できるように支援している。また、希望があれば地域の協力病院からの往診も受けられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、日常的な健康管理を行なっている。(バイタルチェックなど)また、必要に応じて協力病院の支持を仰ぐことが出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時主治医に状況を聞き情報交換を行なっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状未整備。事業所側から積極的に提示をしていないこともあるが具体的な話が出ていない。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所で可能な限り対応し、医療機関と連携して利用者・家族とも早い段階から話し合いをしながら慎重に対応するよう職員全員で方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが具体的に行っていない。救命講習の実施。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して法人職員全体で取り組んでいる。火災発生時の避難体制、非常招集連絡網。	消防署の立会いの下、緊急時に全ての職員が速やかに対応できるよう実技を伴う夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。また、地域住民の協力関係が構築されており、役割分担も明確になっている。マニュアル、定期点検表や非常招集連絡網も整備されている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては法人内規定(個人情報保護法)に従い取り扱っている。	記録などの個人情報の扱いには十分に注意している。利用者の尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛け、プライバシーや羞恥心の配慮にも十分に注意して支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的にはどんな状況においてもまず受け入れることから始め、時間をかけて自己決定に繋がる対応をして行く。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	具体的に買い物に行きたい、家へ帰りたい等の希望があった時は思いを大切に聞いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容については、本人の望む店に行けるようにしている。行けない場合はホームにて出張を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを一緒にしている。食事は職員も一緒に会話をしながら食べている。	利用者の好みを把握し、献立に反映させるよう心掛け、普段から料理の下ごしらえや配膳の準備、食器洗いなど職員と利用者が一緒になって行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックについては、変化があった場合はより詳しくチェックをしている。(補助食品の活用) 水分量については、日常の生活に合わせて自然に飲むことの出来る状況を作っている。(1,000ml目安)		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝介助時口腔内の清潔の支援をしている。(毎食後実施している方もいる)		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄のチェック表の活用からパターンや習慣を参考にしていて、基本的にトイレでの排泄を随時対応している。	水分、排泄のチェック表の活用から排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・食物繊維を意識している。水分も多く摂ってもらっている。腹部マッサージなども行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日中入浴出来る状況を作り関りの中で希望に合わせて入浴できるよう対応している。	一人ひとりの習慣や体調、希望に合わせて、概ね毎日入れるように支援している。浴槽は何時でも入浴が可能な状態を作り、柔軟に対応している。また、むかし館くつろぎユニットではリフト浴が設置されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間のソファでうたたねなど自由にそれぞれの方が時を過ごされている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から出された薬リストを確認している。変化があれば医療機関へ連絡し相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性については日常生活の中で家事を中心に役割を持って生活している。男性の場合は具体的な役割を見出せないでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人が昔住んでいた土地や山菜とり、紅葉見物、ドライブ、パークゴルフ、菊祭り等希望に合わせて対応している。</p>	<p>利用者のその日の希望に沿って、敷地内の畑作りや遊歩道での散歩、隣接している他の事業所に向くなどして戸外に出かけられるよう支援している。また、本人の昔住んでいた土地や山菜とり、紅葉見物、ドライブなど郊外に出かけるような支援にも努めている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>出来る方については所持しているお金で買い物へ出掛け欲しいものを購入している。 出来ない方については同行して欲しいものを購入し、こちらで支払いをしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>対応出来る体制をとっているが近隣の家族の訪問により具体的な要望はない。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気の中で生活できるよう話し合い空間を作っている。利用者にとって不都合が起きた場合随時変更していく。</p>	<p>共用空間は、寄贈された筆筒、ラジオ、茶ぶ台、薪ストーブなどの昔懐かしい物品が所々に配置され、利用者が安心して過ごせるよう工夫されており、利用者が思い思いに過ごせるように所々に置かれたソファや畳みのスペースでは洗濯物たたみや利用者同士が談話する場所になっている。壁には利用者の手芸作品が掲示されて、居心地よく過ごせるようになっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>「いいいの間」など職員が目線から逃れることのできる場所など。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族・本人と相談しなじみの家具を持ってきてもらい部屋作りをしているが不十分である。</p>	<p>居室には家族の写真や本人の作品などを飾り、使い慣れた家具や家電、鏡台なども持ち込まれ、安心して過ごせる場となっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食事作りなどの方が使用しやすい高さのテーブルを選んだり工夫をしている。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700153		
法人名	社会福祉法人 上士幌福寿協会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム むかし館		
所在地	河東郡上士幌町字上士幌東3線241番地		
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果市町村受理日	平成23年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員も環境の一員であることの認識と利用者の命を守る立場であることを基本として徹底することが利用者から受け入れられることであり、利用者が安心して生活できる場作りに繋がっていく。この基本を抜きにして人間関係は成り立たない。よって日々の基本の徹底に取り組んでいる。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174700153&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護サービスを必要とする高齢者と家族が地域で自立した生活を営むことができるよう支援します。と理念を上げています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加することはあるが積極的な関わりとはなっていない。(盆踊り、町内会花見、お祭り、行事など)		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町からの依頼により認知症見守りボランティアの参加者の受け入れを行なっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価の実施状況を伝え、その中から意見をもらい取り入れている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人の事業として取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施しているが自宅の状況把握まで意識の醸成まで至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で受講しているが他職員に伝達までに至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレット等を持って行き説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員との関係では意見等表すことが出来ているが外部者への機会は特に設けていない。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のミーティング及び月1回の職員会議の中で機会を設け反映している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し質の向上に努めている。前期・後期の目標を設置し達成するために努力している。上司と面接し話し合いの場を持っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については学ぶ姿勢を持ち参加している。法人外研修についてはテーマに沿って何を学ぶかを事前に見極め参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会・ブロック等の研修を通じサービスの向上に努めネットワーク作りを目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	一部センター方式を採用している。アセスメントの中で聞き出し受け止めた物を様式にまとめて行く。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	一部センター方式を採用している。アセスメントの中で聞き出し受け止めた物を様式にまとめて行く。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	家族の了解を得て在宅介護支援センターに繋げて行く。		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	基礎介護の徹底。基本的に本人の思いによって一日を過ごしてもらい、一日を通して役割作りが習慣になって聞けるよう関わって行く。		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	来館された家族は、お客としてではなく日常的な仲間も含め他の利用者とも関われる場を作る。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	町内へ買い物などに出掛ける。利用前に通っていたゲートボールが継続できるように送迎を行なっている。		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	基本的に本人の思いで対応している。(一人でいたい時間、二人以上複数でいる時間)職員は意識して見極め対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ法人内に移動した利用者については情報として事業所・家族に伝え定期的に会いに行った。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用をケアプランに導入し実施している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用をケアプランに導入し実施している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当制で対応しカンファレンスの実施。日常的なものについては朝のミーティングを活用。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式にて利用者本位の介護計画を実施している。計画、作成担当者のアドバイスを受け情報を集めている。職員の洞察力が不足している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケースに記録し必要と判断した内容については朝のミーティング等で協議している。しかし、記録内容で洞察力が不足気味である。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて事業所の多機能性を生かした柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上土幌町主催の認知症見守りボランティア養成講座の参加者の受け入れを実施した。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に地元協力病院にて相談等が可能であり治療を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、日常的な健康管理を行なっている。(バイタルチェックなど)また、必要に応じて協力病院の支持を仰ぐことが出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時主治医に状況を聞き情報交換を行なっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状未整備。事業所側から積極的に提示をしていないこともあるが具体的な話が出ていない。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが具体的に行っていない。救命講習の実施。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して法人職員全体で取り組んでいる。火災発生時の避難体制、非常招集連絡網。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては法人内規定(個人情報保護法)に従い取り扱っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的にはどんな状況においてもまず受け入れることから始め、時間をかけて自己決定に繋がる対応をして行く。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	具体的に買い物に行きたい、家へ帰りたい等の希望があった時は思いを大切にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容については、本人の望む店に行けるようにしている。行けない場合はホームにて出張を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを一緒にしている。食事は職員も一緒に会話をしながら食べている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックについては、変化があった場合はより詳しくチェックをしている。(補助食品の活用) 水分量については、日常の生活に合わせて自然に飲むことの出来る状況を作っている。(1,000ml目安)		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝介助時口腔内の清潔の支援をしている。(毎食後実施している方もいる)		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄のチェック表の活用からパターンや習慣を参考にしている。基本的にトイレでの排泄を随時対応している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・食物繊維を意識している。水分も多く摂ってもらっている。腹部マッサージなども行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日中入浴出来る状況を作り関りの中で希望に合わせて入浴できるよう対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間のソファーでうたたねなど自由にそれぞれの方が時を過ごされている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から出された薬リストを確認している。変化があれば医療機関へ連絡し相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性については日常生活の中で家事を中心に役割を持って生活している。 男性の場合は具体的な役割を見出せないでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人が昔住んでいた土地や山菜とり、紅葉見物、ドライブ、パークゴルフ、菊祭り等希望に合わせて対応している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>出来る方については所持しているお金で買い物へ出掛け欲しいものを購入している。 出来ない方については同行して欲しいものを購入し、こちらで支払いをしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>対応出来る体制をとっているが近隣の家族の訪問により具体的な要望はない。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気の中で生活できるよう話し合い空間を作っている。利用者にとって不都合が起きた場合随時変更していく。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>環境を整備し利用者同士が思い思いに過ごせる場を作った。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族・本人と相談しなじみの家具を持ってきてもらい部屋作りをしているが不十分である。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食事作りなどその方が使用しやすい高さのテーブルを選んだり工夫をしている。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホームむかし館

作成日：平成 23年 4月 21日

市町村受理日：平成 23年 4月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催が年4回のみの実施にとどまっている。	運営推進会議の開催を年6回定期的に行う。	年間計画を立てそれにもと付き開催して行く。また、運営推進会議にて話し合い定期的な開催を実施することとなった。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。